

「誇りを持って生活する」

校長 斎藤 滋

今月のオープンスクールに参加された方から「私立小学校のよいところは？ 公立学校との違いは？」と聞かれました。私自身、ときどき外で話をするときによく話題にすることでありますが、公立学校勤務の経験がない私にはなかなか自信を持って話すことが難しいことでもあります。

そもそも私立学校は、創立者の教育に対する理想や願いをもとに作られた学校であり、すでにそこが公立学校とは大きく異なります。桐光学園には、創立者小塚光治先生が示した「建学の心」があり、そのもとに高等学校と中学校、さらには女子の中高が作られてきました。最後に開校した小学校においても、開校の準備をしているときに私は小塚光治先生と何度も学校作りについてお話をさせていただきました。その思いを学校作りの礎としています。近隣には、神奈川県・東京の私学が何校ありますが、それらの学校全てが同様に教育活動の根っこになる「校訓」と「建学の精神」を持っています。皆さんも学校選択にあたり、いくつかの学校の校訓などについてお調べになったことでしょうか。様々なお考えをお持ちの方がお子さんを入学させても、その方たちの平均的な要望が満たされるべき公立学校と異なることは明らかです。また、学校の教育方針を理解し、納得して子どもを入学させていただく私立の学校ですから、保護者の学校への思いはとても強いものがあり、それが学校を支える大きな力になっている点がとてもありがたいことでもあります。

さて、「私立の学校のよさ」とは何かという質問に対して、私はいつも「保護者の協力」「教員の意識」「子どもの意識（一体感や誇り）」「学習指導」であると答えます。しかし、そう言いな

がら、本当にそうになっているかどうかを自分に問いかけることがあります。特に三つ目のことです。子どもたちは桐光学園小学校の児童として制服を着用しています。制服を着用することを嬉しく思い、また誇りに思い、時には自分の姿を鏡に映すなどして身だしなみを整えているのでしょうか。近くの公立小学校の子どもたちが登下校時にほぼ全員が帽子を着用して歩く姿を見かけます。「どうして？」とずっと思っていました。そんなときに、その学校に子どもを通わせている保護者の方と話す機会があり、私はずっと気になっていたそのことを問うてみました。そうすると、「この学校は制服はありませんが、学校で決められた帽子を被ることが子どもたちの一つの誇りとなっているのです」と教えていただきました。今私たちの学校に足りないものの一つがその学校にはちゃんどあると感じました。子どもたちには、制服を着させているというのではなく、自分が大好きで着ているというように思ってもらえるような気持ちになってもらいたいと強く願います。これから夏に向けて白い帽子を被る時期になります。私たちの口から「帽子をかぶりましょう」という声かけが必要のない毎日になることを願います。

「成長期の栄養摂取の大切さ」

教頭 馬場 淳

皆さんは、グッピーという魚をご存知でしょうか。日本では観賞魚として様々な品種が存在し、大きく美しいひれを持つ姿や、飼育・繁殖が容易であることから、人気のある熱帯魚です。成熟した親魚だと、一度に百匹の稚魚（グッピーは卵胎生メダカの仲間、卵の状態ではなく稚魚の状態）を産みます。産むこともあるグッピーですが、その稚魚を育てる際に

重要になるのが餌やりです。成魚のエサは一日二回程度で十分であるのに対して、稚魚は五回も六回もあげる必要があります。稚魚の時期は魚にとつての成長期であり、この時期にバランスよくしっかりと栄養をとることが、大きく丈夫で健康な体を作ることにつながります。

もちろん、そこまで手をかけられずに育てたとしても、多くの場合は成魚になることはできません。しかし、成長期を逃した後はいくら栄養を与えても、その魚の体の大きさはあまり変わりません。むしろ成魚になってからではエサの食べ過ぎで肥満化し、場合によっては死んでしまうこともあります。そのため、育てているグッピーが大きく美しいひれを持つように育てるためには、稚魚の段階でいかにしっかりと栄養をとれるように育てるかが重要なポイントになります。

さて、桐光学園小学校では開校以来、昼食は基本的にご家庭でご準備していただいております。これは、保護者の皆様がお子さんの体調管理や食育を行う上で、ご家庭でご用意いただくお弁当が重要な役割を担っていると考えるからです。人間と魚を同じように語ることができないかもしれませんが、人間も成長期にはバランスのよい食事をしっかりとるように配慮することは言うまでもなく重要なことです。心も体も大きく成長するこの時期に、ご家庭のお力添えをいただけることに、大変感謝しております。

卒業を迎えた六年生が保護者の方々に向けて書く手紙では、必ずと言ってよいほど「朝早く起きて、毎日お弁当を作ってくれてありがとう。」という言葉を目にします。子どもたちもきっとこのお弁当を通して、保護者の方々のご苦労と愛情を強く感じ、理解し、感謝しているのだと思います。

平成三十年度 各学級 一年間の目標

新しい年度が始まって二ヶ月ほどが経ちました。
今年度、各学級で大切にしたいことをご紹介いたします。

★一年一組★

小学校に入り、子どもたちは、以前よりも多くの人と関わりを深めるようになりまし。みんなと一緒に過ごす中で、相手の良いところを目を向けることを大切にして、互いに学び合いながら成長していつてほしいと考えています。そのために、友だちの「素敵だな」と思う行動や言葉を取り上げて、クラス全体に広げていきたいと考えています。学級では、「なんでもがんばる」「やさしいことば」「かんしゃのこころ」の三つを意識して生活を送っています。授業だけでなく、日直や掃除、遊びなどさまざまな場面で、一人ひとりの頑張りや成長を認め、身近な人にも忘れず「ありがとう」の言葉を伝えられるようにして、共にあたたかいクラスを作っていきます。
(大木菜々絵)

★一年二組★

子どもたちが安心して学校生活を楽しくする学級を目指しています。学校の軸となるのが「個のがんばり」と「思いやりある行動」だと考えています。何事も努力をすること、できないことができるようになった喜びを経験することができ。さらに、それを友だちが認めることで大きな自信につながり、それが自分らしさにつながっていきます。このように、お互いを認め合うことで成長していく環境を作るための学級目標を掲げました。それは、「あきらめないで努力をする子」「自分の気持ちを言葉にして伝えることが

できる子」そして「思いやりのある子」の三点です。この一年間で、自分だけでなく、友だちやクラス全体の成長も感じられる子どもたちになってほしいです。
(蒲谷誠一)

★二年一組★

二年生になった子どもたちに、「やるべきことにしつかり取り組める人になる」「自分と同じように、友だちに優しくできる人になる」「クラスはみんな仲間。だからみんなで色んなことができるようになる」と伝えました。そして、今年度は、「約束や決まりを大切にし、よいことに進んで取り組む子」「心をこめた挨拶や、優しい言葉遣いができる子」「『ありがとう』『ごめん』をきちんと伝え、助け合える子」という三つの学級目標を掲げました。子どもたちの「よく成長したい」という思いを大切に指導しながら、子どもたちと共に温かく、穏やかなクラスを作っていきたいです。帰りの会では、クラスや友だちのよいところ発表の時間があります。どんな小さなことでも、子どもたちは、友だちのよさを見つけて発表してくれます。そんな、心が温まる時間がたくさん的一年間になるようにしていきます。
(石井香菜子)

★二年二組★

四月のはじめ、子どもたちに「一年生でできるようになったことを、レベルアップしてできる二年生になりたいね」と話したことがあります。その話を聞いていた子どもたちも頷いており、一人ひとり頑張りたいことを考えていたようです。その話と一緒に今年度の学級目標を発表しました。「やらなければならぬことをやり遂げ、好きなことに夢中になれる子」「相手のことを考えた挨拶や丁寧な言葉遣いができる子」「周りの友だちや生き物を大切に、感謝できる子」の三つの目標です。子どもたちからは「一年生の時と

似ているけれど、レベルアップしているね」という声が聞こえてきました。今はすぐに難しいことも多いと思いますが、二年生の終わりにには全員がこの目標を達成できるように応援していきます。
(尾崎成美)

★三年一組★

三年生に進級した子どもたちに、求める三つの姿勢について話をしました。その三つは「話をよく聞き、進んで考え行動するクラス」、「相手を思いやる言動がとれるクラス」、「まわりの人や仲間感謝できるクラス」です。また、それらと合わせて、一人ひとりにどのようなクラスにしていきたいかを考える機会を設けました。その結果、「聞く・失敗をいやす・協力・思いやり」という学級目標ができました。様々な個性を持つ三十六人の子どもたちが、一生懸命考えて作り上げた大切な目標です。三つの姿勢を大切に目標に向かって、クラスの仲間と成長できたこと自信をもって言えるよう、日々を丁寧に過ごしていきます。
(松田絢子)

★三年二組★

新年度がスタートした初日、子どもたちに「話をきちんと聞くこと」、「切りかえをすばやくしつかりできること」、そして「誰に対しても、思いやりの気持ちと敬意を持つこと」の三つを大切にしていきたい、それができるクラスづくりにしたいと伝えました。これに加えて、校訓を反映させ「約束を守る努力をし、責任を果たすこと」と「誰かのために進んで行動できること」の二つを、先の三つに準ずる目標として伝えていきます。どれも当たり前のようで、実際はなかなかしつかりとできないことばかりかもしれません。このうしたことが生活の中で当たり前のことになるように、長期的な視点で見守り、成長を促すような指導をしていきたいと考えています。
(浅利直樹)

★四年一組★

先日、子どもたちと一緒に学級目標を考えました。「どの子も楽しいと感じ、明るい気持ちで一日を振り返れるクラスにしたいね」学級会での私の出番はそのひと言だけで、「意志・表現・感謝から考えたい」との意見が始まり、三つの言葉から連想される思いが次々と挙げられました。「友だちを励ます」(意志)ことが「ありがた」の気持ち(感謝)につながり、その言葉は「自分の気持ちを表す」(表現)につながることに気づきました。この瞬間、子どもたちは「全部つながった！」と目を輝かせました。校訓に込められている願いは、自分と友だちとのつながりや、互いの成長に欠かせないものばかりなのです。三十五人の思いが一つになった新年度のスタートとなりました。(猪狩裕亮)

★四年二組★

昨年度初めに「お互いの良さを見つけ合い、違うところも理解し合い、同じ教室の仲間となっていくってほしい」と書きました。一年間で、少なくともお互いの個性は理解して、大きな仲間として過ごせるようになってきたと思います。特に楽しい出来事がある時の結束力や勢いはとても大きいです。引き続き楽しい思い出を増やしてほしいと共に、四年生では、その仲間が「楽しさ」だけでなく「正しさ」を基準にして行動できる集団であってほしいです。楽しいことや楽しいことが目の前に見えても、一瞬立ち止まって「今、どうすることがより良いことか、正しいことか」と考えて行動できるように、「正しさ」の先にある楽しさを実感できるように指導していきたいと思います。(田端史子)

★五年一組★

高学年の仲間入りをした子どもたち。上級生として自立した姿、周りの人やものに対して思いやりを持って接する姿を示せるような人になってほしいと思っています。この自立と思いやりは、どちらも周りの人との関わりから学ぶことが多いと考えています。様々な課題を自力で解決するためには、自分なりに考えるだけでなく、いろいろな人の言動から多くを学び、吸収していく必要があります。そうすることで、課題を解決するための選択肢が増え、よりよい方法を選んで実行できるようになります。また、思いやりについては、同学年だけでなく異学年と接する中で、本当に相手のためになる言動というものを考えられるようになってほしいです。人との関わりを通して積み重ねたことが、最高学年として生活する来年度につながるようにしたいと思っています。(佐藤浩太郎)

★五年二組★

自分たちの生活を自分たちで創っていく基盤を育んでいきたいと考えています。そのためにはクラス全体がしっかりとした集団になることが必要です。一人ひとりが周りの人に頼ることがなく、自分がすべきことをきちんと行い、自律した行動をとり、失敗したことを次にいかし、何事にも前向きに取り組んでいきたいです。そんなクラスになっていけるようにしたいです。また、一人ひとりが個性をいかし、より豊かな生活を送っていきけるようにしていきたいです。自分と周りの人たちの違いを認識し、認め合い、そして助け合える。そんなクラスを目標としています。自分にできることを精一杯に行い、周りの人たちの役に立つ行動を率先して行える子たちになってもらいたいと考えています。(新井航)

★六年一組★

「自律し自分の中の正しいルールに従って」その場の楽しいことに流されたりや楽な道に逃れたりすることなく、やるべきことを優先したり、守るべき規律に従って行動したいです。「信頼しみんなを信頼して」、良好な関係を築いてほしいです。信頼している仲間と一緒にだからこそできる貴重な経験ができるはずだ。

「責任し最上級生としての責任をもって」委員会、クラブ、地区別集会など、様々な場面で最上級生としての役割が期待されています。下級生を引っばっていき、学校の活動を作っていくのは自分たちということに自覚し、下級生の憧れの存在となってほしいです。

自分たちで決めた三つの目標です。常に意識して毎日の生活を送ってもらいたいと思います。(福富直史)

★六年二組★

昨年度末から子どもたちに伝えていく「自律」ということを日々目指しながら生活しています。正しいことを恥ずかしながら、自信をもって行動できる最高学年の姿を期待しています。また、様々なことから刺激を受け、吸収し、その力を友だちと協力しながら存分に発揮する機会を多く設けられるようにしていきたいと考えています。今までクラス内で実施してきたレクやシャッフル昼食などを異学年交流として自ら企画できるように促し、クラスでの考えや六年生としての考えを発信できるように子どもたちに育ててほしいです。クラス一丸となって卒業までの一年間を大切に過ごし、ぐっと成長した子どもたちを中学校に送り出したいと思っています。(平本沙也加)

委員会活動紹介

児童たちは5年生になると委員会活動を行います。学校全体に目を向け、よりよい学校にしていくための活動です。その委員会と活動内容を紹介いたします。

「栽培委員」

Aグラウンドの花だんに花を植え、水遣りや雑草抜きなどの世話をしています。このような当番活動以外にも、花を好きになってもらうための活動を考えています。今年度は、新たに2つの企画を実行する予定なので、楽しみにしていただきたいと思います。

(佐藤)

「新聞委員」

主な活動は2つあります。1つは、壁新聞「TOKO人」の発行です。その月の行事や各学年の様子などを伝えていきます。もう1つは、行事の振り返りです。行事ごとに、各クラスの代表の人にインタビューをし、記事や写真を模造紙に貼って全校にお知らせしています。

(島本)

「集会委員」

全校児童が楽しめる集会の企画・実行を行います。グループごとの話し合いの結果、第1回は「先生誰でしょうクイズ」を行いました。全体の流れの検討、スライドや解答用紙の作成、リハーサルなどを行い、本番に臨みました。次回もよりよい集会を目指し計画中です。

(小山内)

「魚委員」

魚委員では、毎年2～3人のグループに分かれて、水槽の管理をしています。今年も学校内の水槽や池の担当を決めて、早速えさやりや水槽掃除をしています。

毎日が当番のようなものですが、みんな責任を持って、生き物の世話に取り組んでいます。

(横山)

「美化委員」

例年行っていた活動は、ペットボトルキャップの回収、行事の際に校舎内の飾り付け、廊下などの掲示物の管理です。今年度はこれに加え、全校児童の身だしなみチェックを行います。全校児童が気持ちよく生活を送れるような活動を今後も考えていきたいです。

(新井)

「図書委員」

図書委員では、桐光学園小学校のみんなが利用しやすいように図書室を整える仕事をしています。カウンターでの手続きや本の片づけや本棚の整頓を行っています。委員長と副委員長を中心に、図書室を利用したいと思えるような企画をたいてい計画中です。

(中村)

「体育委員」

学校生活を安全に楽しく過ごすための取り組みを計画・実施しています。一つ目は「廊下を歩こうキャンペーン」です。廊下を歩く人を増やしていく声かけ活動を週2回行っています。二つ目は、運動により親んでもらうためのイベント企画を立ち上げています。

(平本)

「保健委員」

保健室でケガ人の記録をとるお手伝いや、保健目標を決めることが主な活動です。保健目標は、季節に合った目標を立て、放送で呼びかけています。6・7・8月の目標は「暑さに負けない水分補給」です。ハンカチ・ちりがみチェックなどの活動も計画中です。

(荻原)

「放送委員」

お昼の放送、朝会や音楽集会、発表会などの司会を行います。お昼の放送では、各担当者がいろいろな企画を考えて、全校児童が楽しめるように工夫をしています。また、発声練習や早口言葉、原稿読み練習などを行い、アナウンス力を磨いていきたいと思っています。

(福富)